

Comparative Analysis of Monitoring Neuromuscular Block at the Upper Lip, Corrugator Supercilii Muscle, and Thumb

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松峯, 瑠衣 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30342

主論文の要旨

Comparative Analysis of Monitoring Neuromuscular Block at the Upper Lip, Corrugator Supercilii Muscle, and Thumb (上口唇、皺眉筋、ならびに母指で行う筋弛緩モニターの比較)

東京女子医科大学 麻酔科学教室
(主任：尾崎 眞 教授)
松峯 瑠衣

東京女子医科大学雑誌 第 83 巻 第 5 号 356 項～362 項
(平成 25 年 10 月 25 日発行) に掲載

【要 旨】

全身麻酔中の患者における筋弛緩効果を測定するために、上口唇における筋弛緩モニター方法について研究を行った。成人患者 54 名を上口唇群、皺眉筋群、母指群の 3 群に無作為に分けた。筋弛緩モニター機器 (TOF ウォッチ[®]SX) に接続されている刺激電極を上口唇群では顔面神経上に、加速度トランスデューサーを鼻翼付近の上口唇上に装着し、皺眉筋群ではそれらを各々顔面神経上と前額部の皺眉筋上に、母指群では尺骨神経上と母指の屈側に装着した。3 群間で最大上刺激電流、ロクロニウム 0.6 mg/kg 投与後の筋弛緩効果発現時間と、T1/control の最低値、ロクロニウム投与 10、20、30…90 分後の T1/control と train-of-four (TOF) ratio (T4/T1) の回復について比較した。結果は、最大上刺激電流と筋弛緩作用発現時間は、3 群間で有意差を認めなかった。皺眉筋群ではロクロニウム投与後の T1/control の最低値と投与 10-20 分後における T1/control は上口唇群と母指群より高く、T1/control は、投与 60 分後と 80-90 分後には上口唇群よりも低値となった。TOF ratio は投与 20 分後において皺眉筋群で上口唇群と母指群よりも高値であった。以上より、顔面神経を刺激し上口唇上に加速度トランスデューサーを装着することによって、母指同様に筋弛緩モニターが可能であった。